

東京都品川区立 戸越台中学校



自らよく学び、よく考え、行動できる生徒に ～ 知識・理解の確実な定着に eライブラリ～

戸越銀座商店街の近くに位置し、昔ながらの人情と活気に溢れ、地域交流が盛んな戸越台中学校。校舎が特別養護老人ホームとの合築という点も特徴的で、「地域と共にある学校」としての姿を現しています。

「自律する力」の基盤となる基礎学力定着の一つの方法に、eライブラリを活用する様子を伺いました。

自学に、課題に、eライブラリを幅広く活用

表示期間: 2022年度 7月	明細変更		
実施日: 2022/07/06	点数: 50		
3問	3問		
解答見直し			
教材名	今日の結果	過去の平均	評定
物質が水にとけるようす (1)	○	一点	よく理解できています。
物質が水にとけるようす (2)	△	一点	もう一度、基礎の確認を。
溶解度 (1)	△	一点	もう一度、基礎の確認を。
再結晶 (1)	○	一点	よく理解できています。
水溶液の濃度	×	一点	しっかりと復習しましょう。

▲ 教科書に対応し、A I型ドリルが利用できるeライブラリなら、目標と計画を立てやすい。

また、毎日1ページ以上の「自学ノート」や、放課後に開く「自学教室」など、「**自ら学ぶ取組みが定着している本校の生徒には、背伸びせず自分のペースに応じて学習できるeライブラリが合っています**」と話して下さった野口校長先生。自分で計画を立て、自学にeライブラリを取り入れる生徒もいるそうです。

eライブラリが、問題集やプリント配布の準備時間を削減し、生徒の主体的な姿勢を後押ししています。

教務主任の宮嶋先生によれば、家庭で行った課題をもとに授業を行うなど、授業と家庭学習を一体化させた学びに取り組んでいる戸越台中学校では、長期休業中の課題にもeライブラリを活用しているそうです。

「学習指示」を利用すれば、期間を分けて出題でき、進捗を随時見られます。休業中の生活の様子をはかれ、さらに、提出後にまとめてチェックしなければならない先生の負担感が減るという大きなメリットがあります。



▲ 自学教室では学年を問わず生徒が一堂に集まり、集中して勉強する雰囲気が刺激になる。

インタビュー

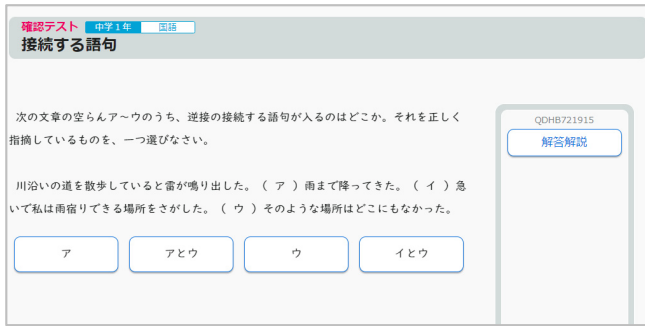
自律する力を持ち、地域に貢献する生徒を育成するために

学校では、生徒に「何を学ばせるか」ではなく「どのように学ぶか」を教えることが求められています。よって授業スタイルは、これまでの教師主導型から、生徒の個別最適な学びを実現する授業へ転換する必要に迫られています。ICT活用はその手段の一つですが、現状はまだ入口にいます。

eライブラリは知識・理解の確実な定着に役立つシステムであり、今後もなくはないものです。 教員個人によらず、学校全体で活用していくには、**できることを具体化すること**です。まず教員がスタートを切り、あとは生徒と一緒に、活用場面を発見し、増やしていくと良いと思います。



校長
野口 大和 先生



教科書で文法を学習したあと、「確認テスト」に取り組み、クラスの理解度を見られます。また、教科書そのままよりも、**類題に触れられ、新しい問題にトライできる**という点で、習ったことを生かす学習につながっていきます。

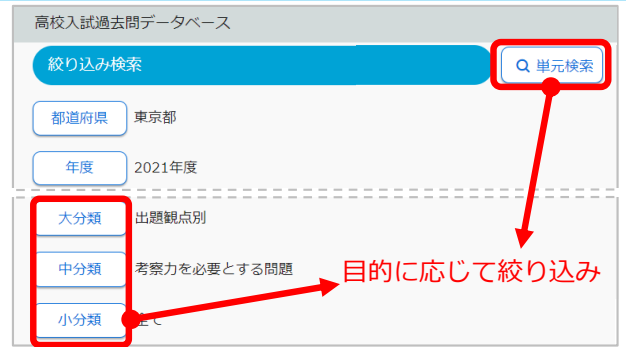
次は「読解スキル」を授業のどこで扱うか、検討してみたいです。

▲ 単元ごとの理解度把握に役立つ「確認テスト」

eライブラリの活用を継続する工夫

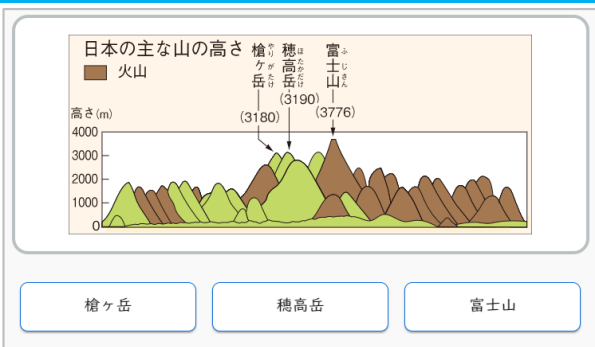
高校入試過去問データベースや単元別プリントは、**単元ごとにまとまっているので、準備に時間がかかりませんし、年間を通して活用できます。**

継続的に取り組ませたい「確認テスト」とドリルは、**月ごとに実施回数をチェック**し、評価に加えています。基準を伝えず、生徒には「自分で満足できる回数を決めよう」と伝えています。



▲ 過去問データベースは単元で絞り授業で活用

知識を定着させ、次の展開へ



▲ 知識の確かめができるドリル問題

知識の定着に適しており、選択式なので思い出しながら取り組みます。「偶然正解する」こともあるでしょうし、それを素直に口にする生徒もいますが、そこで**生徒同士や教員との間に生まれた会話のキャッチボールの記憶とともに、知識は残っていくでしょう。**その記憶を、次は知識同士の関わり合いや結び付けにつなげていってほしいと思います。

たくさん解いて力をつけたいときに

基礎的な問題演習を、**数・パターンともに多く**取り組みませたいときに最適です。「期限設定モード」でドリルを2週間出題⇒「確認テスト」というサイクルにしています。すると実施した分、力がついて確認テストの得点につながりやすいことから、特に苦手意識を持つ生徒には「**やってみよう**」と意識が**変わるきっかけ**になっています。

氏名	進行率	正答率	時間(分)
...	3 / 3	88%	2
...	3 / 3	75%	2
...	3 / 3	75%	4
...	3 / 3	88%	3
...	0 / 3	-	-
...	0 / 3	-	-
...	2 / 3	75%	4
...	1 / 3	89%	2
...	3 / 3	94%	5
...	3 / 3	100%	4

▲ 先生の出題に対する進捗状況を一覧化

ポイント

- 教材準備時間を削減し、類題やさまざまなパターンの問題に取り組ませられる。
- eライブラリの取組み状況を評価に加えると生徒に伝えることで、自分で継続的に計画に入れ、やってみようとするきっかけになっている。